

令和3年度

3 ポリシー（入学者受入れの方針、教育課程編成・実施の方針、
卒業認定・学位授与の方針）に照らした取組に関する意見聴取
報告書

総合福祉学部

社会福祉学科
福祉心理学科
福祉行政学科

総合マネジメント学部

産業福祉マネジメント学科
情報福祉マネジメント学科

教育学部

教育学科

健康科学部

保健看護学科
リハビリテーション学科
医療経営管理学科

2021年10月12日

総務部企画課

学外有識者所属：企業

対象学科：総合福祉学部 社会福祉学科、同 福祉心理学科、同 福祉行政学科

事前資料：With You2022、履修系統図・カリキュラムマップ、進路別の履修モデル

書面報告：あり

ヒアリング：なし

ご意見・ご指摘事項

1. 3つのポリシーの表現について

(1) 総合福祉学部社会福祉学科

アドミッションポリシー、ディプロマポリシーともに具体的でわかりやすく整理されている。学科長のメッセージにある、行学一如と学生が身に付けるべき資質・能力の目標がリンクしており、わかりやすい。

(2) 総合福祉学部福祉心理学科

アドミッションポリシー、ディプロマポリシーともに具体的でわかりやすく整理されている。初年次→基盤→専門教育の体系がわかりやすい。

(3) 総合福祉学部福祉行政学科

アドミッションポリシー、ディプロマポリシーともに具体的でわかりやすく整理されている。遠隔授業を取り入れることも記載があり、こまめにアップデートされているという印象を受けた。カリキュラムは、行政を専門とするうえで民法は必修科目としてもよいのではないかと感じた。

2. 3つのポリシーに照らした取組について

(1) アドミッションポリシー（福祉行政学科）

アドミッションポリシーについて、社会福祉学科と福祉心理学科は同じ平仄なので、共通的に求める部分と学科が独自に求める部分の違いが明らかである。福祉行政学科も先の2学科と同じ平仄とし、独自に求めるものが何なのかを明らかにするほうが、志望者にとってはわかりやすい。

(2) ディプロマポリシー（社会福祉学科・福祉心理学科）

人と人とのコミュニケーションが重視される福祉の現場において、ICTの利活用は比較的遠い存在だと思われてきた。それは、3学科のディプロマポリシーにICTの記載があるものの、プレゼンテーションのツール程度にしか書かれていないことにも表れている。しかしスマートフォンをはじめとするICT機器の普及や、文科省の学習指導要領の改訂によるICTを用いた教育や学習機会の増大などにより、社会において今やICTはスキルではなくコンピテンシーとして認知されている。特に新型肺炎の流行以降は対面でのコミュニケーションが制限される傾向があり、医療現場においてもオンライン診療が初診から認められるようになるなど、ICTは当たり前存在となった。こうした環境の変化を踏まえ、ディプロマポリシーの身に付けるべき資質/能力の目標に、ICTを使いこなす力を明記してはどうか。学部のポリシーには記載されているものの、それを学科のポリシーが受け止め切れていないように感じた。

企業が求める学生の姿には、当然のようにICTを使いこなす力が含まれている。しかし実際そうしたスキルやコンピテンシーを身に付けて社会に出てくる学生は少数である。学生の進路の半数が企業であることを考慮すると、カリキュラムの中にこうした内容を組み込み、社会に出たときに即戦力となる人材を育成することこそ、貴学と貴学の学生の価値を高める

ことに繋がると考える。

(3) ディプロマ・サプリメント (全学科)

即戦力となる人材を育成するにあたり、ディプロマ・サプリメントの導入が考えられる。社会へ進出するために必要な能力や企業が求めるスキルを明確化し、学修成果を把握するのに有効である。

企業一般が求める人材として、自ら考え自ら行動する力を持っていることは当然のことながら、自らの考えを誰もが納得できる形に具現化する能力も求められる。また、義務教育課程における新しい学習指導要領ではプログラミングが加わった。これはプログラミングそのものを学ばせると誤解されがちだが、プログラミング的なロジカルシンキングを学ばせることが本来の目的である。こうした背景から、人文系の学生にとっても今やデータサイエンスは無関係ではいられない。福祉系の専門性を高めることも必要だが、企業において即戦力で活躍するためには ICT を活用しつつ、様々な領域の手法を用い有意義なデータを引き出し、組み立てる能力が求められる。こうした能力をつけるため、データサイエンスを学修できるカリキュラムの整備と、ルーブリックやディプロマ・サプリメントを用いて到達度を図るしくみを取り入れることは有用ではないか。一つのアイデアとして、文科省が定める数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 (MDASH-Literacy) への応募を検討してはどうかと考える。

3. キャンパスガイドマップ (共通)

福祉系の学校または学部を志望する高校生や保護者にとって、最もわかりやすい選定基準は取得可能な資格である。キャンパスガイドマップにおいて、比較的前半に取得可能資格一覧を記載していることは、高い国家試験合格率を誇る貴学の特色に照らして非常にわかりやすいアプローチだと感じた。

4. リエゾンゼミ (共通)

リエゾンゼミは1年次から4年次まで発展的に行われる、カリキュラムの根幹をなすものだと理解しているが、キャンパスガイドでもわずかしか触れられておらず、志望者がイメージを持ちにくい。特に高等学校ではアクティブラーニングなどの普及が遅れているため、昔ながらの一斉学習を中心とした学びが一般的である。そうした志望者がお互いに学び合う姿を想像できるよう、具体的な活動や学びの成果、I~IVの内容の違いなどについて記載があるとよいのではないか。

5. コロナ禍での学生生活 (共通)

実習を伴う資格取得を目指す学生にとって、コロナ禍での授業や学生生活がどうなるかは特に不安である。キャンパスガイドやHPにおいて、感染防止の取り組みや、学生がどのような生活を送っているか、実技はどのように授業をしているのか、資格はちゃんと取得できるのか、といった紹介があると不安を払拭できるのではないか。

学外有識者所属：企業

対象学科：総合マネジメント学部 産業福祉マネジメント学科、同 情報福祉マネジメント学科

事前資料：With You2022、履修系統図・カリキュラムマップ、進路別の履修モデル

書面報告：あり

ヒアリング：なし

ご意見・ご指摘事項

1. 3学科共通

(1) カリキュラムマップ

- ①特に粒度に違いがある様に感じます。見やすすぎると簡易に感じ、詳細すぎても読みにくいといった困難さはあると思いますが、ある程度の統一感があると高品質を感じます。
- ②ディプロマポリシーとの関係において、◎:特に重要がない科目もあります。この点はどの様に理解してよいのか解りませんでした。
- ③習得と修得
用語としては異なる定義だと認識しています。混用が見られますので、ご確認ください。

(2) 基盤教育科目

「〇〇を見る眼」「生活の中の数学」といった科目名の場合、必要とする能力を想像し易いのですが、企業によっては幼い印象を抱くと思います。「データサイエンス基礎」といった科目名の方がアカデミックに感じるのですが、固定された価値観に基づいた印象かもしれません。

(3) 意見

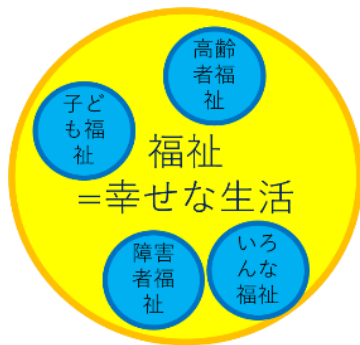


図0 福祉の解釈

「WithYou2022」P009の学長メッセージの「福祉の理念、すなわち幸福な生活の実現」を図0の様に理解しました。ここ数年の「WithYou」を拝読していなかったのですが、とても解り易い説明です。これまで、「福祉とは社会の幸せ」ととらえていたので、あまり祖語はなかったかなとほっとしました。失礼ながら、「行学一如」は難しいです。また、私が見出せなかったのかもしれませんが、LGBTの方々への記載がなかったかと思います。この点も大学として今後どのように取り組むのかをどこかで触れられると良いかと思います。

2. 総合マネジメント学部

(1) 学部長メッセージ

拝読いたしますと、現代社会に対し、2つの視点からアプローチすることが述べられています(図1)。この視点から育成されるトータルマネジメント力は、別々の力になるのでしょうか？

一つのデータに対し、それぞれの視点で学び、その結果を持ち寄って、視点の違いから得られる学びの「自利・他利円満」に結びつくよりトータルマネジメント力の強化が図られると考えます。

(2) 教育方針

① アドミッションポリシー

「将来像を持つ進路意識」、「学びに対してポジティブな姿勢」、「ビジョンの形成」、「公共・倫理観など」が述べられています。両学科において、アドミッションポリシーが述べられていますが、学部の

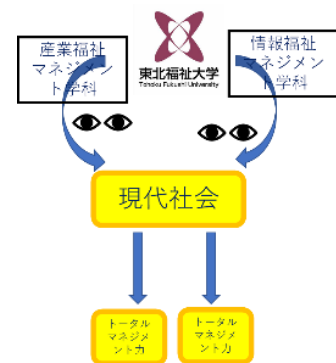


図1 総合マネジメント学部におけるトータルマネジメント力の解釈

ポリシーと、学科のポリシーがどのように結びつくのかが解りにくく感じます。学部のポリシーに基づき、学科のポリシー、更に具体化されるようなイメージを抱いているのですが、いかがなものなのでしょうか？

②カリキュラムポリシー

PBLの説明が学科になされていますが、初見での説明があるとよりよいと考えます。

③ディプロマ・ポリシー

「自己責任能力」はカリキュラム・ポリシーにおいてどういった位置付けにより養われるのでしょうか？

2-1. 産業福祉マネジメント学科

(1) 学科長メッセージ

学部長メッセージとしての内容と類似が多いため、学科としての特徴をより説明された方が良いかと考えます。

(2) 教育研究上の目的

「福祉的経営の視点」とはどのような視点なのでしょうか？

(3) 教育目標

- ・コースが2つ設定されていますが、社会起業・地域創生コースにおける「起業家精神」については述べられていないように読み取りました。この点を反映されるとよりよいのではないかと考えます。
- ・両学科とも「福祉マインド」とはどのようなマインドなのでしょうか？
- ・建学の精神と教育の理念の記載がなされています。この記載は、学部の説明にも記載があった方がよいと考えます。

(4) アドミッションポリシー

- ・両学科を比較すると記載内容の粒度に違いが感じられます(特に求める学生像)。この点、より粒度が高い方に揃えてはいかがでしょうか？また、英語に関する求める力に差異がありますが、学部としては支障ないのでしょうか？
- ・入学前に学習されることが期待される内容については、特に設けていないとの認識でよいでしょうか？情報福祉マネジメント学科と比較すると、ビジネス系の内容が充実しているため、簿記に関する資格は求めても良いのではないかと考えます。

(5) 教育課程編成

コースについては触れられていないのですが、いかがなものでしょうか？

(6) 意見

「WithYou2022」P041を拝見しますと、「総合・国内旅行業務取扱管理者」を除き、ビジネス系の資格が無い様に思われます。折角、福祉を活かしたビジネス系の学科ですので、何か加えられてはいかがでしょうか？くどい様ですが、お勧めは日商簿記3級です。

2-2. 情報福祉マネジメント学科

(1) 学科長メッセージ

- ・「福祉の視点から情報科学を学ぶ」ということは単に情報科学を学ぶこととどのような違いがあるのかに触れると、より良いかと考えます。

- ・「人間力」があらゆるビジネスで必要とされるのはイメージしやすいのですが、同じ文章の中で「重度障害者 ICT 支援コーディネータ 3 級」の記載があり、ビジネスとどのような関連があるのかが解り難く感じます。

(2) 教育目標

- ・「福祉マインド」とはどのようなマインドなのでしょう?両学科に記載があるため、差異のない位置付けがあると良いかと考えます。
- ・建学の精神と教育の理念の記載がなされています。この記載は、学部の説明にも記載があった方が良く考えます。

(3) アドミッションポリシー

- ・両学科を比較すると記載内容の粒度に違いが感じられます。この点、より粒度が高い方に揃えてはいかがでしょうか?また、英語に関する求める力に差異がありますが、学部としては支障ないのでしょうか?

(4) カリキュラム・マップ

- ・知識・技術・理解①において、「自然」における位置づけがどの部分なのかが見出せませんでした。
- ・専門基礎科目 A 群
[社会福祉言論 A・B][地域社会と包括支援体制 A・B] 違いがある科目なのであれば、その違いは見出せませんでした。主題に誤字あり。
[高齢者福祉] 障がい者に関する内容も充実しているため、名称を変更されてはいかがでしょうか?
- ・専門基礎科目 B 群
[情報処理論 I・II]資格名称を統一されると良いかと考えます。
- ・専門基幹科目 B 群
[プログラミング応用 II]L2 に「 ,、」の記載。
- ・専門基幹科目 C 群
[簿記]この内容は是非力を入れていただきたいと思います。情報系において、業務システムの場合、業務理解が必須であり、そのためには簿記の知識が重要です。個人的には、IT パスポートは必要ないので、日商簿記 3 級の方が良いと考えています。特に、最近は 2 級まで CBT 方式となり、受験日も柔軟に設定できるため、2 年前より格段に取得しやすくなっています。この科目は、土曜日などを活用に、積極的に取り組まれると良いと強く考えます。
[マクロ経済学 I・II] 違いがある科目なのであれば、その違いは見出せませんでした。
[現代情報論 II]L2 に「説明 j」の記載。

(5) 意見

「WithYou2022」P049 「デザイン力を身に付ける」は、とても必要なご説明です。

いっぽう、P050 に「仙台市消防局と連携したアプリ開発のための視察」の写真が掲載されています。実際に運用されているとの報道があったかと思います。実際にどのようなアプリを開発したのかといったストーリーが解るとより共感を得られると考えます。

3. 教育学部

3-1. 教育学科

学部から学科への流れに系統性があり、よく理解できます。

また、「WithYou2022」P062 の「あなたにしかできない教育をめざす。」という一文は、「そうそ

う、これこれ!これですよ!」と心の中で叫んでしまいました。また、下から3行にある「特技」を持った教員の養成の必要性についても共感します。一方、初等教育専攻においてP058中段に「各教科の専門的内容をより深く学ぶ」との記載があります。この専念的内容を深く学ぶとは、どのようなテーマを学ぶのかの事例が一つでもあると違うと思います。例えば「右から3つ目」と「右から3つ」の違いをどう伝えるかといった内容です。カリキュラムマップにある各教科・科目の概論と指導法を拝読いたしましたが、教科の専門性に関する記述は算数科と音楽科以外は薄く感じました。

(1) カリキュラム・ポリシー

・(5)学生へのさまざまな支援

「教育フォーラム」を「教育支援研究所(仮)」とし、卒業生への支援を加えてはいかがでしょうか? 卒業生かつ現役の保育者・教員の拠り所として相談機能を持たせたり、卒業生であり教育管理職についての方からのパイプの形成も可能になると思います。そこで得た知見を教育に還元することで、「自利・利他円満」にもつながると考えます。ただ、東北福祉大学閥を形成することが目的ではない点が留意点です。

(2) カリキュラムマップ

・専門基幹科目 A 群

[教育方法論 A] 科目分類・科目名称()内に誤字あり。

・専門基幹科目 D 群

[肢体不自由者の心理・生理・病理] 到達目標番号順に誤りではないかと思われる順あり。

(3) 履修モデル

・初等教育専攻

フォントの配置が中央揃えになっている箇所がいくつかあります。

・中等教育専攻/英語科コース

フォントの配置が上下中央揃えになっている箇所がいくつかあります。

(4) 意見

少子化と教員離れにより、「教員の質」がこれからは問われる時代になると考えています。質の高い教員とは、教科指導においては高い専門性と「特技」を有していることです。

教員自身が各教科の深みと面白みを感じ、指導に繋げられるような教員をどれだけ確保するかが、今以上に校長の手腕が試されると思います。一方、苦戦している私学もありますが、私立小学校へのニーズは高まるものと予想しています。ショッキングな表現ですが、「選ばれる教員」という言葉が出てくるでしょう。

次に、学習指導要領の背景について学ぶ機会を設けられても良いかと考えます。Education2030を切り口に、教育と経済の関係を把握することで、社会における教育の大切さと必要性が高まり、学校社会の中とその近傍に存在しがちになってしまう視点の脱却を早期にはかることができると考えています。この部分は、企業人から特別講義の様な設定で展開してはいかがでしょうか?必要だと思えます。

学外有識者所属：医療機関

対象学科：健康科学部 保健看護学科学科、同 リハビリテーション学科、同 医療経営管理学科

事前資料：With You2022、履修系統図・カリキュラムマップ、進路別の履修モデル

書面報告：あり

ヒアリング：なし

ご意見・ご指摘事項

1. 保健看護学科

(1) アドミッションポリシー

2にある「入学前に培うことを求める力」という文言は意味がよくわかりません。内容からは『入学前に身に付けておくべき素養』の意味と思われる。全ての学科で共通の項目となっており、わかりやすい文言に訂正しては如何でしょうか。

(2) カリキュラムポリシー

- ・医療の課題である「チーム医療」「医療の質向上と医療安全」についての学習が、成人看護等の科目に盛り込まれているか、明示してください。
- ・学習方法としてPBL（リハビリテーション学科・作業療法学専攻で取り上げられている）あるいはTBLの採用についてご検討ください。

(3) ディプロマポリシー

- ・看護師・保健師の2021年3月の国家試験合格率がそれぞれ100%であり、保健看護学科教育は適切であると評価します。

2. リハビリテーション学科

- ・作業療法学と理学療法学の違いについて、入学前の学生が十分に理解しているか疑問です。
- ・教育に関するポリシーは作業療法学と理学療法学で微妙に異なります。3つのポリシーの微妙な違いが専門外の人間には理解できません。理解できるように2つの専攻の違いを説明した上で記載が望ましいと思います。
- ・専門学校との違いについて明確に説明することが望ましいと思います

(1) アドミッションポリシー

①求める学生像について

- ・理学療法学専攻ではその前文で「本学の『建学精神』を理解し」の文言が入っていますが、全体の説明にはこの記載がなく、作業療法学専攻では『建学精神』の記載がありません。一貫性にかけると思います。
- ・アドミッションポリシーとして作業療法学専攻は4項目、理学療法学専攻は5項目が箇条書きで挙げられています。作業療法学の4番目の項目と理学療法学の5番目の項目は「自己評価および生涯学習ができる学生」という同じ内容と思われるが、文言が異なります。その他の項目もほぼ同じ内容と思われるが、微妙に異なる文言となっており、項目数も異なります。その理由が不明です。必要があつての違いであれば、その違いの理由がわかるように説明すべきと思います。
- ・求める学生像が複雑でわかりにくいと思います。

(2) カリキュラムポリシー

繰り返しになりますが、専門学校の学修とは異なる点をアピールしてはどうでしょうか。

①教育課程編成

1・2年次のリエゾンゼミというユニークな取り組み、年次毎に学習のレディネスに合わせた臨床実習の配置は評価します。

②学修方法・学修課程

作業療法学専攻と理学療法学専攻のカリキュラムが相当に異なる理由が理解できなかったため疑問に思ったことを以下に記します。

- ・作業療法学専攻では1年次に早期体験実習があるが理学療法学専攻にはありません。理学療法専攻では見学実習が早期体験学習に相当するもののでしょうか？
- ・作業療法学ではPBLを活用したグループワークを設定すると述べられていますが、理学療法学専攻ではPBLを活用したカリキュラム設定がみられません。この理由は如何でしょうか？
- ・作業療法学専攻と理学療法学専攻が入学時から分けられていますが、入学時から作業療法学と理学療法学を正確・十分に理解して入学してくる学生はそれほど多くはないと推察します。可能であれば中途からの組み替えが可能となるカリキュラムについても検討いただきたいと思います。

(3) ディプロマポリシー

- ・2020年度(2021年2月)東北福祉大学の国家試験合格率が作業療法士97.4%(全国平均79.0%)、理学療法士97.4%(全国平均81.3%)と良好な成績であり、学修課程・卒業認定が適切であることを示していると思います。

3. 医療経営管理学科

- ・医療経営管理学科は、①医療事務関連職、②救急救命士、③運動指導者、④公務員・企業就職指向者の4種類の人材育成を行う学科として設置されています。学科の名称から推測すると医療経営戦略や医療福祉管理学を勉強し、医療・福祉ビジネス関連の人材を育成する学科と捉えられますが、東北福祉大学では異なっています。①～④の職に向けた人材育成の学科名として『医療経営管理学科』が適切かご検討ください。
- ・①～④のコースが一括されてポリシーが設定されていることが適切かご検討ください。
- ・専門学校との違いについて、学科説明の最初にあることが望ましいと思います。

(1) アドミッションポリシー

- ・「評価方法」について、②救急救命士の育成コースでは、より実践的知識・技術の評価が必要と思われれます。育成コース毎に評価方法を設定する必要はないのでしょうか？

(2) カリキュラムポリシー

- ・「学修方法・学修課程」について、①～④の全ての育成コースで包括されるポリシーでよいかご検討ください。
- ・「学修成果・評価のあり方」について体験学習や自主学習、課外活動を学修成果の評価とするのはユニークな方法と思われれますが、資格試験の合格率や就職に反映されているかなど、評価方法の妥当性について検討してください。

(3) ディプロマポリシー

国家試験があるのは学科内のコースとしては救急救命士である。2020年度(2021年3月)の国家試験合格率は86.7%(全国平均86.7%、大学卒平均84.7%)で大学卒の全国平均と遜色がないが、大学の教育課程が、消防学校や専門学校とどのような違いがあり、どのような優れたところが身に付くのかポリシーから読み取ることができません。繰り返しになりますが、『医療経営管理学科』という学科名からは、医療ビジネス関連の学科を連想させます。実際は、①医療事務関連職、②運動指導者、③救急救命士、④公務員・企業指向者の人材育成が主体であり、医療ビジネスとはあまり関係のない職業人育成が目的の学科です。医療ビジネス関連学科と誤解されないように学科名の再検討、学位授与の要件、学位名(学士の名称、全ての学科で修学時に授与される『学士名』の説明がありません)の再検討が必要と思われれます。